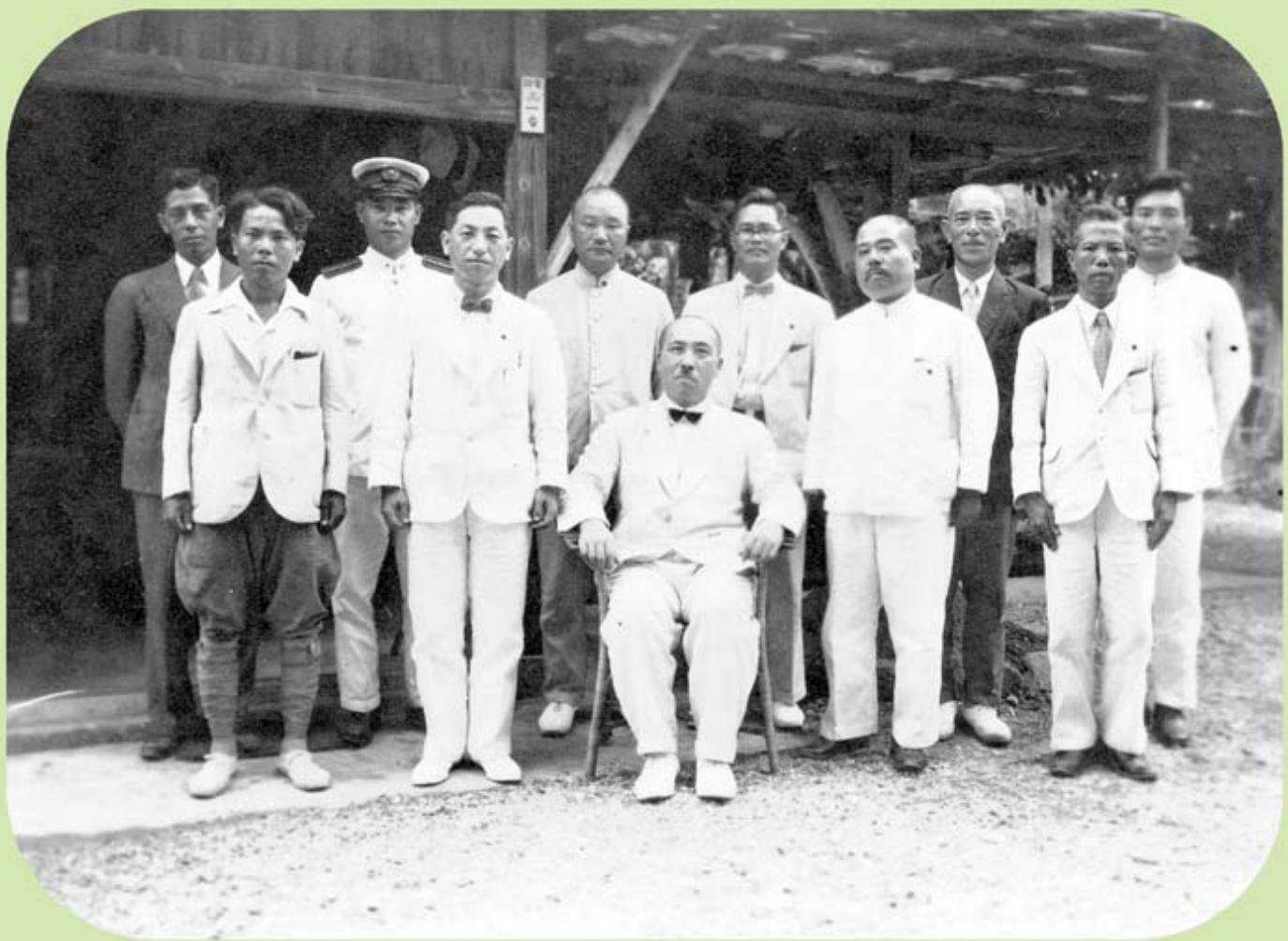


アーカイブズ

# ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第21号

平成15年3月27日発行



名護土木出張所にて 昭和12年9月

中央：沖縄県知事 蔵重 久

中央左：学務課長 平野 薫

(新着資料 平野薰関連資料より)

## ▶企画展『1940年代の沖縄の空中写真』

2002年9月18日から開催していた企画展「1940年代の沖縄の空中写真」が、2003年3月30日をもって終了します。南部、中部、北部、宮古・八重山の4つの圏域別に展示を行い、のべ約6,000人以上の観覧がありました。(3月10日現在)

この企画展で展示した写真(一部除く)は、閲覧室設置の空中写真閲覧システムで、閲覧・複写ができます。

宮古島 1946年2月22日撮影  
高度20,000フィート(約6,000メートル)



## ▶公文書講演会

2002年12月6日 県庁講堂で、公文書講演会「証としての記録～知の遺産を生かすために～」(講師：大濱徹也 独立行政法人国立公文書館理事)を開催しました。



## ▶資料保存講演会の開催

2003年1月24日 当館講堂で、資料保存講演会「写真の保存について」(講師：荒井宏子 東京都写真美術館保存科学専門員)を開催しました。



## ▶普及展

2002年12月2日から6日まで、県庁県民ホールで、普及展「歴史資料としての公文書-県民共有の財産を後世へ引き継ぐために-」を開催しました。



## ▶中学生職場体験

11月13日と20日の2日間、城北中学校の生徒(2年生)2名が、総合学習の一環として公文書館業務を体験しました。



## ▶ 歴史講座

「沖縄関係英文資料を読む」というテーマで歴史講座を開催しました。

第1回 講師 ロバート・エルドリッヂ 大阪大学大学院助教授  
演題 沖縄関係公文書・私文書を中心に  
-アメリカ人研究者として-  
日時 2003年1月15日(水)



第2回 講師 仲本 和彦 (財)沖縄県文化振興会公文書専門員  
演題 沖縄戦後史と米国政府公文書  
日時 2003年1月22日(水)



第3回 講師 我部 政明 琉球大学教授  
演題 沖縄関連の公文書資料の探し方・読み方  
日時 2003年1月29日(水)



第4回 講師 我部 政明 琉球大学教授  
演題 公文書館で収集した資料の全体像と個々の文書  
日時 2003年2月5日(水)



第5回 講師 宮里 政玄 沖縄対外問題研究会代表  
演題 1945-50年の沖縄における軍政 I  
日時 2003年2月12日(水)

第3・4回 (講師) 我部 政明

第6回 講師 宮里 政玄 沖縄対外問題研究会代表  
演題 1945-50年の沖縄における軍政 II  
日時 2003年2月19日(水)

第5・6回 (講師) 宮里 政玄

## 琉球政府文書のマイクロフィルム撮影業務



琉球政府文書庫

1952年から72年(日本復帰)までの間、沖縄には米国統治のもとに立法・行政・司法の三権を有した琉球政府が置かれました。琉球政府設立以前には、諮詢会、民政府、群島政府など、米軍統治下での沖縄の行政組織がありました。

当館は、この特異な時代の公文書等(琉球政府文書)約16万簿冊を、適切な環境のもと保管し、貴重な歴史資料として多くの県民の利用に供しています。



保存箱に収められた琉球政府文書

しかし、ほとんどの琉球政府文書は、酸性紙や青焼きなどの長期保存に適さない紙が用いられており、年々劣化が進んでいく状況にあります。

これら貴重な記録が読みとれなくなる前に、マイクロフィルムに撮影して複製物を作成し、後世の人々へ継承していきます。

### マイクロフィルム撮影作業工程



綴じ部分が読めないものは綴じを外します。  
また、劣化の原因となるクリップ、ホッチキスなどを除去します。



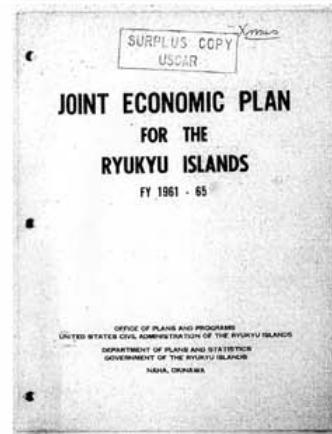
頁毎に撮影します。



撮影後は補強紙を付けて、麻紐で綴じ直します。

USCARと琉球政府の両政府がはじめて共同で策定した琉球経済の発展を目指すプロジェクト。(1961年度から65年度の5ヵ年計画)

金融、貿易、工業、農業、水産業、移住計画、税制との各種分野についての包括的な計画となっています。



資料コード:0000011829

沖縄の金融機関について  
On the Financial Institutions  
in the Okinawas

鈴木金融調査団  
Suzuki Financial Study Mission

1969年3月  
March, 1969

資料コード:0000011772

1968年7月、沖縄の本土復帰準備として、琉球開発金融公社資産の琉球政府移管と県内金融機関全体の効率的体系のあり方等を調査する目的で、日本銀行監事鈴木源吾を団長とする金融調査団が設置されました。同調査団は4回にわたる来沖調査に基づき、1969年7月「琉球開発金融公社資産の琉球政府移管に関する勧告」および同勧告の基礎資料である「沖縄の金融機関について」を作成しました。同勧告と資料を総称して「鈴木レポート」と呼んでいます。

# 特集

## 琉球列島米国民政府 USCAR 経済局文書

RECORDS OF UNITED STATES CIVIL ADMINISTRATION OF THE RYUKYU ISLANDS  
ECONOMIC DEPARTMENT

1950年12月から72年5月までの間、米国政府の出先機関として琉球列島米国民政府(USCAR: ユースカー)が置かれました。USCARは複数の部局に分かれ、琉球住民の民政にかかる業務を行ないました。なかでも経済局は、沖縄における金融、商業、産業の強化・育成、天然資源の有効利用促進を主な業務としました。経済局文書の中には、琉球銀行、琉球開発金融公社の管理、各種産業開発、移民事業などに関する文書等があります。



文書シリーズ 作成年度 フォルダ数

1 総務文書	1951~72	1,771
2 共通職務に関する文書	1962~64	101
3 琉球銀行月報	1967~69	36
4 琉球銀行の管理に関する文書	1972	3
5 琉球開発金融公社(開金)関連文書	1961~71	76
6 開金の借入れ申込みに関する文書	1962~72	281
7 産業育成に関する文書	1957~61	37
8 地場産業に関する文書	1951~72	39
9 資源管理に関する文書	1965	7
10 琉球列島における琉米共同経済計画に関する文書	1961~68	4
11 技術協力事業関連文書	1959~62	26
12 移民事業関連の経済開発に係る文書	1957~59	20
13 経済調査報告書	1959~72	12
14 西表島及び他の琉球諸島において潜在的経済効果が期待できる資源についての調査に係る文書	1960~67	11
15 訓練と経済研究に関する文書	1964~70	29
16 移民事業に関する文書	1959~72	38
17 農業専門家に関する文書	1953~70	83
18 土地開発に関する公聴会及び会議に関する文書	1958	8
19 出版物	1948~71	150

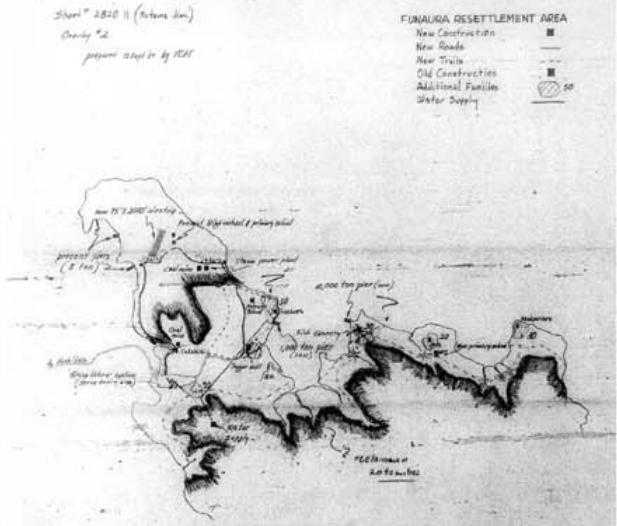
頁数にして約25万→ フォルダ数合計 2,732

1950年代に軍用地問題が引き起こした政治的緊張をきっかけに、「経済状態を改善することによって政治問題を解決する」との視点に立ったUSCARは、一連の経済政策の再編、拡充に乗り出しました。こうした政策の一環として、1959年1月に沖縄の銀行制度や金融制度を調査するため、米国から銀行調査団が招請されました。米国連邦準備銀行理事会の特別顧問レオナード氏を団長とする同調査団は、約2ヶ月にわたる実地調査を行いました。USCARは同報告書に基づき、金融機関に対する監督強化、沖縄経済に対する金融の利便強化を図りました。



資料コード:0000011765

FUNAURA RESETTLEMENT AREA  
New Construction  
New Roads  
New Trails  
Old Construction  
Additional Families  
Water Supply



資料コード:0000011835

「移民事業に関する文書」シリーズの中には、ボリビアなどの海外移民に関する文書のほか、県内移住計画に関する文書も含まれています。写真は、八重山民政府が作成した西表島船浦開拓移住に関する文書の一部です。

## ● 平野薰関連資料（5月公開予定）

1935年から39年(昭和10年～14年)にかけて、沖縄県の学務課長・県視学官として赴任した故平野薰(ひらのかおる)氏の関連資料が、歴史研究家の野々村孝男氏の仲介により、ご遺族の平野洋・キヨ子御夫妻から、2003年3月に当館へ寄贈されました。これらの資料は写真11枚、辞令書1点、手紙1点、式次第1点、書籍45冊です。

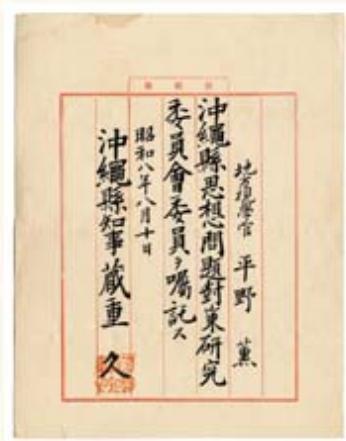
11枚の写真(複写資料)からは、名護土木事務所(表紙掲載写真)や辺野喜山林事務所等の沖縄県の機関、平野氏はもちろんのこと、蔵重久沖縄県知事や尚順男爵をはじめ、蜂須賀正氏侯爵、島袋全發、島袋源一郎など、昭和初期の著名な人々の姿を見ることができます。

1935年から40年にかけては、小葉田淳、伊東忠太、鎌倉芳太郎ら県外の沖縄研究者が多数来沖した時代であり、1939年に撮影された「平野・屋代御夫妻の招待の宴」(写真右上)は、蜂須賀正氏侯爵をはじめ、尚順男爵とその令息と令嬢のほか、昭和初期に来沖したフランス大使館参事官ファン男爵夫人も見える貴重な写真です。

また、地方視学官平野薰が沖縄県知事蔵重久から発令された「沖縄県思想問題対策研究委員会委員ヲ嘱託ス」の辞令書(写真右)は、文部省が1933年から34年にかけて各府県に「思想問題研究会」を設置させていたという、当時の社会状況を物語る貴重な資料です。



「平野・屋代御夫妻の招待の宴」 1939年6月13日



「沖縄県思想問題対策研究委員会委員ヲ嘱託ス」  
1933年(昭和8)8月10日

## ● フライマス・コレクション（6月下旬公開予定）

故エドワード・O・フライマス氏(1919–2001年)のご遺族より、フライマス氏が長年にわたって収集した沖縄関係資料のコレクション(約3,200点)が寄贈されました。フライマス氏は、軍政府やUSCARでの公務を通して戦後復興期の沖縄と深く関わった人物です。また、生涯にわたって沖縄の歴史、文化、政治などに関する書籍や文書を幅広く収集し、その資料を提供することにより、米国の沖縄統治を研究する人々へ多大な貢献をされました。フライマス・コレクションは、18～19世紀に刊行された琉球に関する欧文古書をはじめ、沖縄関連の図書、雑誌、パンフレット、新聞の切り抜き、論文、文書類からなり、その分量は書架長にして約40メートルにもなります。故フライマス氏の沖縄に対する深い思いを知るご遺族が、同資料を沖縄のために役立ててほしいと希望され、今回の寄贈となりました。



フライマス・コレクション(6号書庫)

## ● 米軍撮影空中写真

米国国立公文書館が所蔵する沖縄関係空中写真の中から新たに約1,200枚をネガフィルムに複製して収集しました。これらフィルムはデジタル化され、空中写真閲覧システムでご覧になれます。1944年9月29日、10月10日に撮影された沖縄島と周辺離島(屋我地島、伊江島など)の写真、米軍が沖縄上陸作戦の前後(1945年3月下旬～4月上旬)にかけて撮影した偵察写真(読谷～嘉手納の海岸線、読谷、嘉手納、小禄、与根の日本軍飛行場周辺、那覇港周辺、勝連半島周辺)などが含まれています。



「与那原町伊計」 1945年4月1日

収集または寄贈を受けた資料は、目録作成等の整理や保存作業を終えた後に閲覧できるようになります。

國力

公文書専門員 仲本和彦

ス不能」、「歴史の喪失」という国家にとって最悪の事態を招きかねません。「今まで通り、紙に刷り出して保存すればいいのに。賭け事みたいなことをして：」と高をくくつて見ていた人もいたでしょう。（実は、私もその一人です。）

「電子公文書館」とは、行政がパソコンやデジタル・カメラなどで作成した記録を紙に刷り出して保存するのではなく、電子媒体のまま数百年保存し、インターネットなどを使って、いつでもどこからでもアクセスでき

しかし、米政府は、周辺の冷感的な反応を見事に裏切る形で、最近ついに、「数年内に試作品を完成させること」と発表したのです。すでに「人類の月面到達に匹敵する快挙になる」という声も挙がっています。

いってもどこのがりでモブリセントで見るようにするというもの。（※いわゆる「デジタル・アーカイブズ」とは違います。）聞こえはいいのですが、最近まで「実現不可能」と言わされてきました。

もし、これが実現すれば、行政に 対するアクセス度が高まり、アメリカ国民は多大な恩恵を受けることになります。

電子媒体を数百年保存するためには、まず、現存するハードウェアやソフトウェアがこの世から消えても、そのデータを再生できる技術を開発しなければなりません。それに、記録の改ざんや爆発的に増加する容量の問題など、越えなければならぬ多くの難題があります。

にもかかわらず、米政府は、紙に刷り出さずに記録を保存する「全面電子化」こそ取るべき道と、数年前から莫大な予算を投じ、産・学と一緒になつて開発に取り組んできました。失敗すれば、貴重な記録への「アクセ

録への「アkses不能」や「歴史の喪失」という最悪の事態に見舞われるのは、「どうせ失敗する」と高をくくつて見ていた私達の方かもしません。デジタル化がますます進む二十一世紀。今や唯一の超大国となつたアメリカと他国との国力の差は、ますます広がっていくような気がしてなりません。

公文書館の利用に役立つ情報をご案内します。

## 中学校・高等学校の総合学習での利用

中学校、高等学校の総合学習で公文書館を利用してはどうでしょうか。沖縄はかつて独立した王国であったこと、廃藩置県により沖縄県になり、大戦後はアメリカに統治され、昭和47年に日本に復帰した…、という沖縄の歴史を、そのときどきの公文書等が実感させてくれます。米軍が撮影した昔の沖縄の写真も数多くあります。生徒や先生方のアイディアで公文書館を利用して下さい。公文書館職員もお手伝いします。

## バージョンアップした空中写真閲覧システム

1940年代の沖縄の空中写真を閲覧できる空中写真閲覧システムがバージョンアップしました。これまでの垂直撮影の空中写真だけでなく、斜め撮影の写真もスライドショー形式で閲覧できます。また、大きなサイズのプリントも可能になりました。(プリント料金 A4版:70円 A3版:120円 \*斜め撮影写真はA4版のみ)

## 琉球政府公報データベース(ねっとOPA)

当館ホームページより配信している琉球政府公報は、画像が高画質であったため、表示されるまでに時間がかかりました。今回、表示速度を上げる対応を行いましたので、これまでよりスピーディに閲覧することができます。

(画像の閲覧にはAcrobatReaderが必要になります。ご使用になっているOSがWindowsで、かつInternetExplorerをWebブラウザとしている場合は、「Webブラウザに組み込み」機能を使うと表示されない場合があります。詳しくはホームページに記載されている注意事項をお読み下さい。)

## 展示会

## 常設展「沖縄県公文書館の収蔵資料」

期間 4月15日(火)～7月27日(日)、10月28日(火)～  
場所 当館展示室

## 企画展「公文書館収蔵資料による沖縄の乗りもの今昔」

期間 8月8日(金)～10月12日(日)  
場所 当館展示室

## 移動展「沖縄県公文書館収蔵資料による多良間」

期間 9月4日(木)～9月15日(月)  
場所 多良間村

## 講演会

(当館講堂)

## 歴史講演会 「ペリー提督と琉球王国」

講師 照屋 善彦 琉球大学名誉教授  
日時 7月11日(金) 午後6時30分～8時

## 歴史講演会 「沖縄の鉄道」

講師 ゆたか はじめ エッセイスト  
日時 9月19日(金) 午後6時30分～8時

## 資料保存講演会 「今後の記録資料の虫菌類対策について」

講師 木川 りか 東京文化財研究所主任研究官  
日時 2004年1月22日(木) 午後3時～5時

## 講 座

(当館講堂)

## 「戦前の県政 沖縄の県令・県知事たち」

## 第1回 初代沖縄県令 鍋島直彬とその時代

講師 金城 正篤 沖縄大学教授  
日時 8月2日(土)午後2時～3時30分

## 第2回 第2代沖縄県令 上杉茂憲とその時代

講師 秋山 勝 沖縄大学非常勤講師  
日時 8月9日(土)午後2時～3時30分

## 第3回 第8代沖縄県知事 奈良原繁とその時代

講師 田里 修 沖縄大学教授  
日時 8月16日(土)午後2時～3時30分

## 第4回 第22代沖縄県知事 井野次郎とその時代

講師 仲地 哲夫 沖縄国際大学教授  
日時 8月23日(土)午後2時～3時30分

## 講習会

(当館講堂)

## 資料保存講習会 「保存箱とエンキャブレーション」

講師 大湾 ゆかり (財)沖縄県文化振興会 修復士  
日時 8月14日(木)午後2時～5時

## ● 入館無料

## ● 開館時間 09:00～17:00 (閲覧申請は16:30まで)

## ● 開館日

赤色の日は  
休館日です

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

緑色の日は常設展準備のため  
展示室のみ閉室します

## ● 交通

【路線バス】 新川バス停下車 徒歩1分  
・那覇交通(株)市内線1番  
・東陽バス(株)91番・96番

【駐車場】 50台(大型バス用有り)

アーカイブズ ARCHIVES 第21号  
沖縄県公文書館だより  
発行日 平成15年 3月27日  
発行 沖縄県公文書館  
編集 財団法人沖縄県文化振興会 公文書管理部  
〒901-1105 沖縄県南風原町字新川148-3  
TEL 098(888)3875 FAX 098(888)3879  
URL <http://www.archives.pref.okinawa.jp>